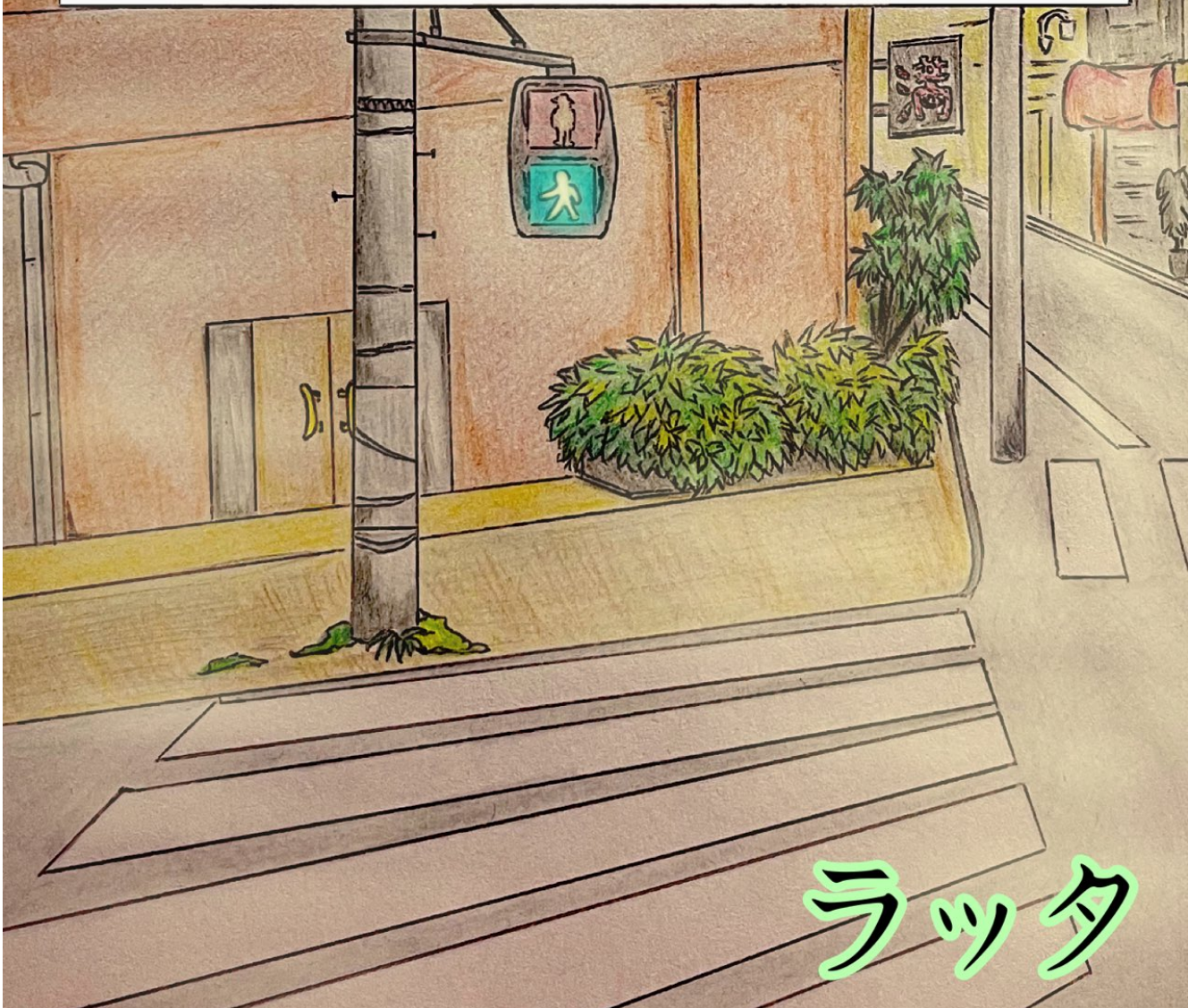


さよなら、 赤信号



さよなら、赤信号

くどん底LIFEが全部ひっくりかえった！

たった1枚の5000円札のベストな使い道

A s i d e

僕だつて健全な成人男子。

風俗店にくらい、行つたことがあります。

…と言つても、まだ今までの人生でソープランドに2回だけ。だから偉そうに語る資格なんてないんだろうけれど。

いきなり下世話な話でごめんなさい。

Track01・・・はじめに、横断歩道と（たぶん）姫

そういうお店に初めて行ったのは、32歳の夏。そんなに昔じゃない。自分の手掛けるビジネスがやっと上手く回り始めた頃。

リサイクルショップなどで安く仕入れた商品を販売し、仕入れ

額と販売額の差額から利益を得る「せどり」。せどりなどの個人ビジネスに関するノウハウを人に伝える「情報発信」。それらに加えて、「ゴーストライター」という新たな手札を獲得して間もない、有頂天だった時期だ。

男だらけの仲間たちで集まった、飲み会の席。

男だらけの飲み会らしく、案の定「そっちの話題」になったのがきつかけ。

「思い返してみれば、プロの人にも遊んでもらったことない

なあ」

その日はちょうど、東京の神田あたりで明け方まで盛り上がっていた。盛り上がるうちに、

「帰り道にでもひとりで吉原の歓楽街を散策してみたい」という話題になり、その場で計画を立てた。

朝も早よから、お店の立地を確認。ネットカフェかどこかに移動&仮眠。そこであらためて、お店の口コミなんかをリサーチしながら「どの店にするか」の最終決定と予約をし、開店と同時に駆け込む作戦だ。

数時間前に、同じ席でお酒を楽しんでいた、ひと回り以上も年上の某社長さんから、情報は仕入れていた。

高鳴るドキドキを抑えて、安易に送迎車を呼ぶのではなく、吉原の町並みを五感で味わいゆつたりと散策しながら、徒歩でお店を訪ねるのが「粹」なんだとか何とか。

そうやって、リビドー精神を語る彼のキラキラと輝く表情は、今も脳裏に焼き付いている。まるで、博物館で初めてティラノサウルスの化石を見た少年が、翌日の学校で友達に感動を伝えるときのような無垢な瞳で、社長は吉原遊びの何たるかを僕に説い

た。

心の底から「知らんがな」と思ったけど、右も左も分からない以上、そうするのが無難そうだ。彼の提案する作法に素直に従うことにした。

三ノ輪駅で降りる。

候補として教えてもらった、何軒かの高級店への道のりをスマホで確かめる。

爽やかな朝の澄んだ空気がとても心地いい。これから向かう先がどこであろうとも……。

駅を出て少し歩いた頃、赤信号につかまった。

横断歩道で立ち止まったのは、僕と、脇道からやってきた斜め前方の女性。

身長165cmはあるだろうか。スラリと伸びた長身の、その腰まで届きそうなサラサラの黒髪。服装はシックな色合いのシャツ

にモノトーン調のスカート。とりわけ目立つものではなかった。でも、後ろ姿の雰囲気でなんとなく分かる。たぶん、横断歩道の先にあるどこかのお店に務める「姫」だ。

信号を待っている間、その女性は華奢な身体をやや猫背にして、ただうつむいていた。

ほどなくして、その場にしゃがみ込んで、長めに時間をとって「はあー…」と深くため息を漏らした。

◆信号機は、僕たちを待つてはくれない。

彼女のため息の理由は、僕には当然分らない。

家を出る前にプライベートで嫌なことがあったのかもしれないし、前日の仕事で何かトラブルがあったのかもしれない。あるいは、ただ単にお腹が空いていただけなのかもしれない。

唯一確実だったのは、後ろ姿だけではつきり分かるほど、まるで「この世の終わり」かのような気配を醸し出しながら、しやがみ込んで下を向き、長く深いため息をついていたことだけ。

僕には何人か、そういうお店で働いた経験のある友人がいる。彼女たちは、好き好んではそういう仕事をやっていなかった。みんな、何か事情があつて仕方なく働いている人たちだった。

「辞められるなら今すぐにでも辞めたい」と、目に涙を溜めながら話す子もいた。

もちろん、風俗店で働いている女性が全員そうだとは思わない。好きで、プライドを持って、仕事をまっとうしている人もいるだろう。でも、僕はどうしても、個人的によく知る友人たちの姿を、斜め前方でしゃがみ込みうなだれている女性に重ねてし

まった。

余計なお世話としか言いようがない、とりとめのない考えをぼんやり頭に浮かべながら、そうやって120秒ほどの待ち時間をやり過ごす。

当たり前だけど、そんな時間は長くは続かない。

赤信号は、時間が経てば青色に切り替わる。切り替わるからこそ、信号機の意味がある。

僕と斜め前方にいる女性を、その場にとどまらせていたソイツも、あつさり青色に切り替わった。目が合うなり、気だるそうに淡く点灯しながら「ほらほら、歩くならさつさと歩けよ」と、向かいの歩道にいる歩行者を促す。

…ひとしきり、身体中の二酸化炭素を吐き出しきつたその人は、ゆつくりと立ち上がった。

猫背を真っ直ぐに正し、大きく息を吸い込んだ。まるで、さっきの大きなため息は、この深呼吸に至るまでの助走だったんだと

証明しているみたいだった。

それから、キツと前を向いて、背筋をピンと伸ばしたまま、何事もなかったかのように、彼女は決然とした足取りで横断歩道を渡り出した。

彼女と同じタイミングで、僕は横断歩道を渡ることができなかつた。

ただ立ち尽くしながら、少しずつ遠くなっていく、その後ろ姿に見惚れてしまった。今までの人生で見えてきた中でもトップクラ

スなんじやないかってほど、その後ろ姿は格好よかった。

信号機の色が、赤から青へ変わるまでの短い時間で、彼女が何と戦っていたのかを僕は知らない。

対戦相手はただの空腹だったのかもしれない。いや、もしかしたら、すべてが僕の思い過ごしだったかもしれない。歩くのに疲れたから、ただしやがんで信号を待っていただけって可能性もある。

だけど、彼女の心のうちが何であれ、信号待ちを終えて立ち上

がり、背筋を伸ばし、大きくゆつたりとした深呼吸のあとに凜と歩き出す姿に見惚れながら、僕は、とても大切なことを思い出していた。

ブログでもメールマガジンでもSNSでもそれ以外の媒体でも、仕事として情報発信に取り組む際に、必ず決めておくべき重要なことがいくつかある。そのいくつかの中のひとつが「コンセプトメイキング」だ。

朝の5時頃にたまたま見かけた、素性も事情も知らない女性の

後ろ姿を見て、自分が情報発信を始めた頃のコンセプトを思い出す。

「僕は、人生をあきらめきれず足掻き続ける人が体勢を立て直すまでの、止まり木でありたい」。

ちなみに余談だけど、あの日の吉原の横断歩道で、おそらく姫であろうその女性の姿を見かけたのはそれが最初で最後。

当日に予約したお店で、いざ対面したら「まさかの再会！」みたいなことはなかった。ドラマのようにはいかないものだなあ、と、ちよつと残念だった。

でも、その日に相手してくれた別の姫がすごかったからいいや。感動しました。「これがプロか！」って。

…いや、この部分、マジで余談だな……。

◆この本は、最初から最後まで僕のわがままの塊です。

本書を手にとって頂き、ありがとうございます。ラッタと申します。

「生まれて初めて書く電子書籍：どんな内容にしよう？」なんて考えながら、家の近所にある真夜中の遊歩道を缶コーヒー片手に散歩しながら、あの日の吉原での出来事をふいに思い出しました

た。

早朝の歓楽街で見かけた、あの女性の姿が脳裏をよぎった瞬間、「電子書籍……どんな内容にしよう？」に決着がつかしました。

この「はじめに」の部分は、バカ正直に本当に最初に書いています。

ここから何文字、何ページ、言葉を綴ることになるかはまだ分かりません。だけど、たぶん全体を通して、ごくごく個人的な、

ただの長いプロフィール文みたいな感じになるんじゃないかと予感しています。

先に謝っておきます。ごめんなさい。

あなたにとって有益性の高い情報は、ここにはないと思います。

僕の仕事はライター、コンサルタント、アドバイザー、プロデューサー、せどらー等々いろいろあるのですが、傾向として、ビジネスノウハウだったりテクニクだったりを人に指導させて

頂く機会が多いです。

ふだん発行しているメールマガジンでも、せどりやライティン
グなどの手法やマインドセットについて語ることが多い。そし
て、それが読者の方から求められている、僕の仕事なんだという
自覚もある。このたび、初の書籍を執筆するにあたって、僕のこ
とを以前から知ってくれている人たちからは、ノウハウ系、テク
ニク系の本を書くことを期待されていたかもしれませぬ。

自分自身のキャラクターや立場を考えたも、

・ 「直伝！次から次へとお金を生み出す極秘ノウハウ17選」

・ 「半年で人生が変わる！本業の収入をヒョイツと上回る、例
のビジネスの基礎から裏テクまでを徹底解剖」

・ 「たった120秒で別人が書いた文章に！本当は誰にも教え
たくなかった、魔法のライティング講座」

たとえば、こういうタイトルのハウツーものを書いた方が喜ん
でもらえるんだろうと思います。

だけど、ごめんなさい。

僕は、この本に限っては、自分が書きたい！と思っただけを、好き放題に自分勝手に書き殴つていこうと考えています。

「読んでくださる方にとって、有益で価値のある情報を提供する」という、ビジネスマンとして持つていて然るべき理念を放棄してしまう可能性が非常に高い。

そういったものは、すでに無料であれ有料であれ、他の媒体で惜しみなく発信しているつもりです。書籍という形で販売しなくても、無料の範囲内で参考にして頂けるものも多いと思いますし、今回はそちらに譲るといふ形でご容赦ください。

「自分が書きたい！」と思っただけを好き放題、自分勝手に書き殴る。

お金と時間をかけて、この本を読んでもくださる読者様に対して、僕はなんて身勝手な暴論を吐いているんだろう？と、自分で言いながら自分に多少呆れはするけれども…。

顧客やクライアントの目線に立ち、どんな情報を提供すれば相手にとってメリットがあるか？それだけをひたすらに考えて、今まで文章を書いてきました。読んでくれた方が、僕の紡ぐ言葉か

ら、何かひとつでも多くの有用性の高い情報を得て頂くこと。それを常に念頭に置いて、今までテキストトエディターに文字を叩き込んできました。

そんな僕にとって、生まれて初めて書く書籍は、過去最大にして過去最低なわがままの塊みたいなものになるでしょう。

「こんな本にお金払わせやがって！」

「時間を無駄にした。信じられない！」

「お前ビジネスマンだろ？だったら、ビジネスに関係するお役

立ち情報を書けよ！」

そうやって怒る人もあらわれるかもしれない。そしてそれは無理もない。「すみません」としか言いようがない。

だけど、ひとつだけ。

「今まで、数十万文字、数百万文字と文章を書いてきた。その中で、いちばんの本気を出して、これから文章を書いていく」
それだけ、決めました。

「ビジネスに活かせる情報を書くつもりがない本。そもそも何の役に立つかも分からない本。そんなもんに本気を出されても……」

そうやって、あなたに眉をひそめられるのも無理はないし、相変わらず「すみません」としか言いようがないんだけど。

だけどそれでも、この際、ダメ押しのわがままを言わせてください。

もしよかったら、僕のこんなわがままにお付き合い頂けると嬉

しいです。

そして、

僕が好き放題にわがままに、今まででいちばん本気を出して紡いでいく言葉たちの中に、万が一、奇跡的に、あなたにとって何か役に立つエッセンスが含まれていたなら、それに勝る喜びはありません。

そんなわけで、僕史上最大で最低で全力のわがままを、始めます。

ラッタ

◇Track List◇Aside

Track01・・はじめに〜横断歩道と（たぶん）姫〜5

◆信号機は、僕たちを待ってはくれない。 8

◆この本は、最初から最後まで僕のわがままの塊です。 12

Track02・・「お金がすべてじゃない」って、なに？ 21

◆「パパ、今日はお家でお休みしてていいよ」 23

◆みっともなくって、かっこ悪くて、美しい。 27

Track03・・おかけになった電話番号は現在使われておりませ

ん。 31

◆岩を砕くような、鈍くて低い破裂音。 33

◆2011年3月11日14時46分。 38

Track04・・It's like Weather rain. 43

- ◆ 今までの人生で、いちばん温かくて美味しかった。 44
- ◆ 「せどりって、なんだ？」 50
- ◆ 全身毛だらけな貧乏神と、ゴリマッチョ体型な幸運の女神。
53
- Track05・・・僕の人生をひっくり返した、50000円札。 61
- ◆ 誰よりもオーラがない、すごい人。 61
- ◆ 「まずはせどり」 64
- Track06・・・コトバとボク。 71
- ◆ 今までに経験したことのない種類の快感。 73
- ◆ 職業「ライター」へ。 77
- Track07・・・「大嫌い」から「ちょっと好き」へ。 83
- ◆ きっかけは、ほんの些細なこと。 85

- ◆ 音声配信、おもしろい！ 87
- ◆ 放射状に広がる「繋がり」 93
- B s i d e 96
- Track08・・・これでいいのだ！ 97
- ◆ 客ゼロ、ミス連発、作り笑い。 100
- ◆ 僕は「自分のことが嫌い」な人が好き。 103
- ◆ 遠慮なく自分を嫌って、軽蔑して、そして、 105
- ◆ せっかくネガティブになるなら、とことんならう。 109
- ◆ 「これでいいのだ！」 112
- Track09・・・清く正しい、大人の園児で在ろう 115
- ◆ 人間って、そんなに捨てたもんじゃなかった。 118
- ◆ リアクションは、ギフトだ。 122

- ◆ ActionよりもStance 126
- Track10・・・「人生のミッションは何ですか？」 132
- ◆ ライフワークとライスワーク 133
- ◆ 自分史上、文句なしに最低の出来事。 135
- ◆ 正論だけじゃ、人は救えない。 139
- ◆ やりたいことが、まだまだ山積みなんだ。 142
- Track11・・・「生きたい」 147
- ◆ 「大人でも泣くことあるんだ」 150
- ◆ みつともなく、最期までジタバタしたい。 156
- Track12・・・Medley 160
- ◆ もしも人生が2時間の映画だったら 160
- ◆ 世界中のヒモになりたい。 164

◆このあと、ごはん食べるんだろっな。 169

Track13・レター 173

おむらじ 180

Track02・・・「お金がすべてじゃない」って、なに？

「お金がすべてじゃない。お金よりも大切なものがある」

声高にこういう言葉を主張する人の真意が、僕にはよくわからない。

「何をあらたまって、そんな当たり前のことを・・・」なんて思っ
てしまう。

少なくとも、世の中にある「価格」の付いているものは、誰か

にとつてお金より大切なものだ。たとえば1本10円のうまい棒を誰かが買ったのだとしたら、その誰かにとつては、うまい棒の方が10円玉よりも価値があつたということだろう。それだけの話。とても当たり前の話だ。

僕たちは、お金よりも大切なものにしかお金を使わない。

お金は、それと、お金より大切なものを交換するための物質十概念だ。それ以上でも以下でもない。

石や貝殻をお金として使っていた時代から、貨幣が登場し電子

マネーが浸透しつつある現在まで、その本質とするところは同じ
なはず。

この世の中に、お金より大切なものが一切ないのだとしたら、
みんなお金を手放さず、財布に入れて持ち歩くこともなく、大事
に保管している「だけ」になっってしまう。お金がすべてじゃない
からこそ、お金よりも大切なものがあるからこそ、僕らはそれを
手に入れたり、守ったり、より深く愛でたりするため、お金が
必要なんだ。

最近では、自己啓発本なんかに目をとおすと、

「お金はとてもしいものです」

「お金は生きていく上で必要不可欠なものです」

「お金の悪口を言うのはやめましょう。心からお金を愛していれば、あちらの方からあなたのお財布へと舞い込んでくれます」

そういう言葉を見かけることが多いし、以前よりもお金という物質＋概念そのものに対するメンタルブロックが屈強な人は減ってきたとは思う。

だけどやっぱり、いざお金の「稼ぎ方」の話になった途端、反

応を硬化させる人はまだ多い。

たとえば人に「このような稼ぎ方をしたらどうですか？」みたいな具体的な提案をすると、少なくとも確率で「そんなことでお金をもらっていいのでしょうか？」なんて答えが返ってくる。よしんばお金そのものに対するメンタルブロックが外れても、その受け取り方の話になると、また別の問題みたいだ。

もちろん、人を騙したり傷つけたりして、よそ様からお金を奪うなんてことは言語道断だ。だけど、自分の提案する商品やサー

ビスに対してお客が喜んでそれを差し出してくれるのなら、遠慮なく受け取ればいい。

というか、お金の稼ぎ方に極端にこだわり過ぎていて人を見ると「あーだこーだと言ってるけれど、要するにあなたは今まで本当の意味でお金に困ったことがないんですね。だから、お金を稼ぐことそのものよりも、その過程における美観ばかりを重視できるとですね。うらやましい悩みだなあ……」なんて嫌味のひとつも言いたくなくなってしまう。

◆「^{。。}パパ、今日はお家でお休みしてていいよ」

何年か前、高校時代から付き合いのある古い友人から頼まれて「せどり」を教えることになった。

彼は、奥さんと、4歳になる娘さんとの3人暮らし。そして、奥さんのお腹には新しい家族の命が宿っていた。

せどりとは簡単に言うと、実店舗やネットショップなどのお店から目ぼしい商品を買って来て、それをアマゾンやメルカリ

などに出品して利ざやを得る転売ビジネス。

「転売」と聞くと、朝も早よから家電量販店に並んでゲーム機を買い占めたり、2020年の例だと、ドラッグストアでマスクを買い占めたり。そういう迷惑行為をはたらく輩の姿が脳裏をよぎる。一般的に良いイメージはあまり抱かれないうだろう。

もちろん、僕もそういう横取り買い占め転売みたいな迷惑行為は全く推奨していない。そういうことをする奴らは「1日1回、まあまあへこむ規模のバチが生涯当たり続けてほしい」と思っ

いる。

僕自身、昔から音楽が好きで、それだけにライブやコンサートのチケツトを買い占めて、法外な価格で横流しするダフ屋には殺意に近い感情を覚えていた。ダフ屋は、せどりを始める前の僕にとって転売のイメージを象徴する存在。だから、それまでは「転売」というフレーズを聞くだけでアレルギー反応を起こすタイプだった。

実際は、商品を購入してくれたお客さんから、

「入院している父を元気づけたくて、この商品を買いました。欲

しかつた品物がとても綺麗な状態で届き、父も病室で喜んでいます。本当にありがとうございます！」そんなご連絡を頂くことも少なくなけれど…。

それにしたって、「転売」というだけで、世間から温かい目で歓迎される確率は極めて低い。当然、それを進んでやりたがる人は少ない。

にもかかわらず「せどりをやりたい」と言っているからには、彼らは止むに止まれぬ事情を抱えた、ワケアリな人である場合が

多い。僕に「せどりのノウハウを教えてほしい」と頼み込んできた、高校時代の友人である彼もそうだった。

昼間の仕事だけでは収入が足りず、夜はコンビニでレジ打ちなどのアルバイトをしていた。

昼間の仕事は、悪い意味でその給料に到底見合わないような専門性の高い職種。肉体的にも精神的にも、決して楽なものではなかっただろう。

ヘトヘトに疲れて家に帰って、コンビニ店員としての制服が詰

め込まれたリュックサックを鷲掴みにして、Uターンでご飯を食べる間もなく家を飛び出す。ただただ、家と本業の職場とコンビニを、靴と自分をすり減らしながら行ったり来たりする。そんな生活だったそうだ。

ある日、彼がいつものように、本業の仕事を終えてフラフラになりながら帰宅したときのこと。

家の玄関をくぐり、部屋を見渡すと…コンビニバイト用のリュックサックがない。

「あれ？おつかしいなー…。今日も家を出る前にこの場所に置いてから出かけたはずなんだけど…」

そうやって頭の上に大きなはてなマークを描いていると、彼の娘ちゃんが真剣な顔をしながらひよこつと現れた。彼女が小さな体に纏っていたのは、ブカブカのコンビニ店員の制服だった。

4歳になる娘ちゃんは、彼に向かって、相変わらず真剣な眼差しと声のトーンで、

「パパ、今日はお家でお休みしてていいよ。わたしが代わりに働いてくる！」と言った。

僕はその話を聞いただけで、ちよつと泣いてしまいそうだった。他人の僕でそうなんだから、パパである彼のそのときの心境は計り知れない。

自分の子どもをととも愛おしく想うと同時に、彼は「一家の大黒柱として、たまらなく自分が情けなくなる」と語った。まだ4歳の小さな女の子に気を遣わせてしまうくらい、俺は弱り疲れ切っていたのか、と。

「家族にもつといい生活をさせてやりたいから」

「妻にも娘にも新しく生まれてくる子にも、心配をかけたくな
いから」

これが、彼が僕に「せどりを教えてくれ！」と頼み込んできた
動機。

◆みつともなくて、かつこ悪くて、美しい。

友人にせどりのノウハウを教え始めて、3ヶ月ほど経った頃。

彼は見事、せどりで、コンビニバイトの給料を補って余りある

ほどの金額を稼げるようになった。アルバイトを辞める前日、感謝の言葉とともに「これで娘や家族とも、沢山遊んだり出かけた
りできそうだ」と嬉しそうに僕に伝えてくれた。

朝から晩まで働き詰めの中、崩れてしまいそうな身体を両足で支えて、必死で踏ん張った。せどりのノウハウを僕から一滴もこぼさず吸収しようと、そして何より成果を出してお金を稼ごうと歯を食いしばって、せどりに取り組んだ。彼の殺気立つほど真剣な姿を思い出すたび、胸が熱くなる。

彼だけじゃない。

僕が、こういう個人ビジネスの手法をお伝えさせて頂く活動を始めてから、数え切れないほどのワケアリの人と出会った。

・会社をクビになってしまい、妻子を養うお金を捻出するべく奔走を始めた人

・家族を介護しなければならなくなり、会社に行かずに自宅で完結するビジネスを探していた人

・家庭内で暴力を振るう旦那から逃れて、子どもと一緒に幸せに

生きることを強く望んだ人

・かつての僕と同じく、心の病気になった経緯があり、ラストチャンスをつもりで起死回生を狙った人

・「絶対、この子に不自由な思いをさせない。私、お金をもらえ
るんだったら、他人のウンコだって食べます」 まだ2歳の男の子
を抱き抱えて語った、20代の若いお母さん

彼らは、脇目も振らずお金を追いかけた。貪欲に泥臭く、一心
不乱にお金を稼ぐことに執着した。

その姿をはたから見たとき、余裕なく切羽詰まって見えていただろうか？みつともなく無様に映っていただろうか？そうかもしれない。

僕はそんな彼らの、みつともなくて、かつこ悪くて、無様な姿を、とても美しいと思った。

一生懸命に取り組んだ結果を、その後日談を、報告してくれたときの嬉しそうな表情や、活き活きとした声の調子。僕にとって一生の誇りだ。

「お金がすべてじゃない！お金よりも大切なものがある」
脈絡もなく、この言葉をわざわざ口にする人の真意が僕にはまだ分からない。

だけど、もし仮にこれが、耳あたりの良さばかりを重視した雰囲気だけのスローガンなのだとしたら。

そんなもん：彼らがヨタつきながら、這いつくばりながら、そして起き上がりながら、お金よりも大事なもののために全力でお金を追う姿に比べたら、鼻息で大気圏の果てまで飛んで行ってし

もうほど軽い。

お金がすべてじゃない。お金よりも大切なものがある。

だから僕たちは、お金を稼ぐこととマジメに向き合おうんだ。

すみません。無料版はここまでになります。

もし、こんな個人的な乱文の「続きが読みたい」なんて珍しい方がいらっしやったら、おそれいりますが、アマゾンページよりおもとめただけですと幸いです。

・「さよなら、赤信号〜どん底LIFEが全部ひっくりかえった!5000円札のベストな使い道〜」 (<https://www.amazon.co.jp/dp/B09L4CB3QY>)

※Kindle・アンリミテッド（サブスク）に入っていれば、無料で読むことができます。 (<https://www.amazon.co.jp/kindle-dbs/hz/subscribe>)

「さよなら、赤信号」の表紙を描いてくださった、カノコさん

(<https://twitter.com/KANOKO37922735>)

「さよなら、赤信号」BGMをつくってくださった、しものんさん。

(<https://twitter.com/NonShimoweb>)

「さよなら、赤信号」サウンドトラックをつくってくださった、さとゆづさん

(<https://twitter.com/satonobinobi>)

「さよなら、赤信号」A+画像をつくってくださった、ミライさん

(https://twitter.com/mirai_habatake1)

「さよなら、赤信号」ポップ画像をつくってくださった、スルメさん

(<https://twitter.com/surume4832>)

「さよなら、赤信号」のPRイラストをつくってくださった、けんいちさん

(https://twitter.com/pandaken_ken)

「さよなら、赤信号」CM音声をつくってくれた、カノリエ類、ていーさん、タムさん、オレンジエ
ルさん、アコリ、Jさん、みーちゃん、ゆづさん、あおび、ふうちゃん、ゴウ氏、ウエハースさん

ありがとうございます---

◆「さよなら、赤信号」CM音声

<https://stand.fm/episodes/617fb0095a70980007e96517>

◆「さよなら、赤信号」BGM

<https://stand.fm/episodes/6182971e72db680006a141fe>

◆さよなら、赤信号イメージサントラ収録「聞き流すピアノ vol.2」

<https://linkco.re/trQa09hh?lang=ja>